|  |  |
| --- | --- |
| 事業名【R3年度】 | 糖尿病重症化予防事業 |
| 背景（データヘルス計画との関係性・健康課題・計画での位置づけ） | 疾病の未治療もしくは医療機関を受診しているにもかかわらず数値が改善しない状態（アンコントロール）が原因で重症化し、透析や入院、手術が必要になる人がいる。R2年4月時点での国民健康保険被保険者の内、人工透析の者は13人であり、これ以上該当者を増やさない取組が必要である。また、令和２年度に生活習慣病が原因となる心筋梗塞で50万円以上の治療が必要となった人は9人おり、9人の医療費総額は15,167,160円、最高額は3,712,630円であった。対象者が事業に参加するかどうかの確認は医療機関の合意を得る観点から、医療機関から対象者に説明を行っている。令和2年度は2医療機関が対象者に対して参加者の合意を得られた。※令和2年度は対象者の募集まで実施。　重点目標である医師会との協力体制を作ることができた。（医師会所属の内科16施設のうち、13施設から事業の協力を得ることができた。） |
| 目的 | 事業対象者の各数値が改善され、保健指導時における本人の健康意識が改善又は維持される。また、事業終了後もかかりつけ医と専門医の連携が保たれ、重症化する前に専門医が介入できるようになる。 |
| 対象者周知・募集方法 | 対象者：国保被保険者で、健診結果及びレセプトから数年以内に人工透析または虚血性心疾患のリスクがある人の内、本人及びかかりつけ医から事業参加に同意が得られた人　9名募集方法：健診結果及びレセプトから抽出された対象者のうち、かかりつけ医が事業への参加を必要と判断した人に対し、かかりつけ医から事業の説明及び参加募集を行う。 |
| 事業内容 | 実施期間実施日時実施場所内容 | 期間：4月中旬～8月内容：対象者は期間中アプリ又は紙で自身の食事、運動、体重・血圧等を記録専門医・薬剤師・栄養士による保健指導の実施(面談又はオンライン面談を複数回実施）　　　栄養士、薬剤師によるアプリ上又は電話、メールによる定期的な経過観察及びアドバイスを実施　　　専門医はかかりつけ医に対し、投薬や治療方針についてのアドバイスを行う。また、悪化してしまった場合の専門医への紹介基準を提示し、事業終了後もかかりつけ医と専門医の連携を継続させ重症化を防ぐ。 |
| 実施体制（従事者・担当ごとの役割等） | 長久手市：全体の取りまとめ　参加者のサポート　　　　　　　　 株式会社スギ薬局：薬剤師・栄養士による服薬・栄養・運動指導株式会社JMDC委託業者：対象者の抽出及び事業結果の分析　　　アステラス製薬株式会社：医師会、愛知医科大学病院との調整東名古屋医師会長久手支部：指導方針の決定愛知医科大学病院：専門医による対象者への保健指導、かかりつけ医に対する投薬や治療方針へのアドバイス |
| 今年度の重点目標 | 保健指導実施者の健康に対する意欲の変化 | 重点目標に対する実施後の評価 | 9人に事業を実施し、全員が食事に対する意欲が改善、8人が運動に対する意欲の改善が見られた。 |
| 目標評価指標 | 区分 | 事　業　計　画 | 実施後の評価（＊達成度　Ａ：目標達成　Ｂ：目標達成していないが改善　Ｃ：変化なし　Ｄ：悪化　Ｅ：判定不能） |
| 指標（事業番号ごとに設定） | 目標値 | 評価（データ入手方法・入手先・時期） | 指標の評価結果 | 達成度＊ | 成功・推進要因 | 課題・阻害要因 | 全体評価・今後の方向性 |
| ストラクチャー | 関係機関との協力体制の構築 | 医師会、専門医と連携する | 事業終了後（9月） | 医師会、専門医の理解を得られ、連携協力できた | A | 事前の根回しを十分に行ったため | 対象者として抽出されても参加を拒否したり、医師が難しいと判断した人もいた。報告の中で、委託業者の薬局が当初の予定に無かった自社アプリを指導に使用していたことなどがわかり、事前に指導方法などをより細かく確認する必要があった。 | 専門職、かかりつけ医、栄養士、薬剤師が連携して指導を定期的に行ったことで、実際に参加した対象者は意欲、数値ともに大きく改善が見られた。今後は、医師会等に事業結果を報告し、更に理解を得ることで、参加する医療機関を増やし、対象者を増やすことを検討している。 |
| 業務に従事するマンパワーの確保 | 必要数の確保 | 事業開始時及び終了後 | 計画通り必要数が確保できた。 | A | － |
| プロセス | 対象者の適切な選定 | 適切な対象者を選定する | 事業開始時及び終了後 | 対象者として抽出した者から実際に透析患者が出た例もあり(事業への参加同意は得られなかった)、適切に抽出できていた。 | B | 健診、レセプトなど複合的に対象者を抽出したため |
| 事業の進捗状況の管理 | 毎月経過報告共有会を開催 | 5月～8月各1回 | 毎月経過報告会を実施し、進捗管理を行った。 | B | 定期的に報告会の実施を促したため |
| アウトプット | 保健指導実施率 | 100％ | 事業終了後（9月） | 1名管理栄養士による保健指導を拒否した者がいた(89％) | B | － | アプリを使用することに抵抗感を示す人がいた。 |
| アウトカム | 参加者のうち数値が改善した人の割合 | 90％ | かかりつけ医での血液検査、次年度健診結果 | 全員に改善が見られた(100％) | A | 適切に保健指導が実施されたため。 | AIを用いて対象者を複合的な要因で抽出したため、数値的にはまだ問題ないという理由で医師から指導不要と断られた人がいた。 |
| 対象者の合意が得られた医療機関の数 | ３医療機関 | 参加者確定後 | 2医療機関から合意が得られた。 | B | － |
| 参加者の健康に関する意欲の変化 | 意欲あると答えたものが100％ | 事業終了後（9月） | 全員に改善が見られた(100％) | A | 適切に保健指導が実施されたため |

**個別保健事業計画・評価　　　　保険者名（長久手市）　　国保ヘルスアップ事業申請　有（**[ ]  **A**[x]  **B**[ ]  **C　）**[ ]  **無**　注：青の囲み部分は事業実施後の評価時に記載